

花きハウスに遮熱剤・遮光剤

ドローンで省力化

三重・JA伊勢

【三重・伊勢】JA伊勢は6、7月にわたって、ドローンを使って伊勢市内の花き生産者6戸のハウス合わせて約100軒の屋根に、遮光剤や遮熱剤を塗布した。伊勢志摩地域農業改良普及センタ―と連携した取り組み。ハウス内に入る光や熱を抑えてバラなどへのストレスを軽減する。効果は3、4カ月。JAは、塗布したハウスでの出荷量や生育状況を把握しながら、本格導入に向けて検討を進める。

暑さに
克つ

JA管内では、バラやガーベラなどをはじめとした花き類の栽培が盛んだ。近年では高温の影響で、葉焼けや花焼けなどの被害が発生している。夏場の強すぎる日光は、作物の

ストレスとなつて、光合成を抑制する恐れがある。地域では近年、夏場の出荷量が減っており、対策が急務となっている。

遮光剤・遮熱剤の塗布は昨年度から、青ネ

ギの育苗ハウスで試験的に始めた。本年度は新たに花きハウスにも散布をした。7月上旬には伊勢市で、JA職員がドローンを操縦して、バラハウス20軒に

遮光剤を散布した。ハウスを管理する生産者は「ドローンで塗布作業を行ってもらえるので、省力化につながり助かる」と話した。



ドローンを操縦して遮光剤を散布するJA職員